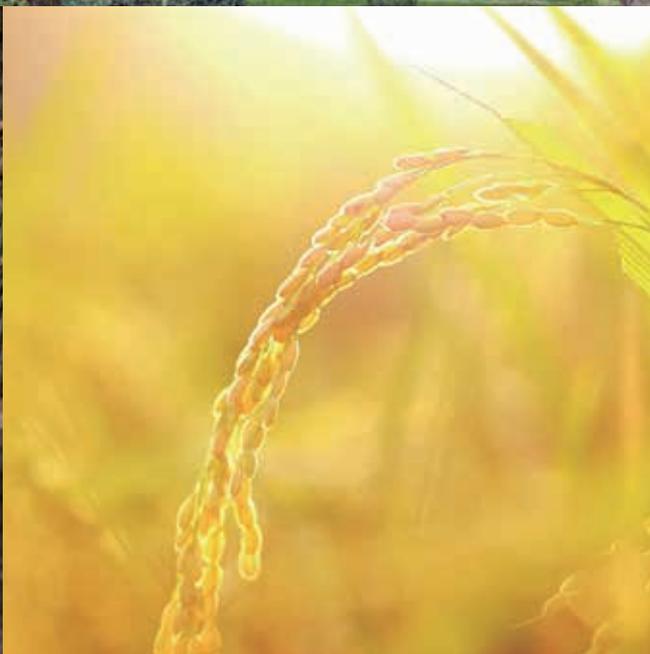


令和3年度

世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



世界農業遺産小学生作文コンクールについて

1…目的

次代を担う小学校第5学年及び第6学年を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2…課題

「私のふるさとの世界農業遺産」(題名は自由)

3…応募数

国東半島宇佐地域内(豊後高田市・杵築市・宇佐市・国東市・姫島村・日出町)の小学校19校より182点

最優秀賞

国東市立志成学園 …………… 5年 安見 彩里
「ため池を守る池守り」

優秀賞

杵築市立立石小学校 …………… 6年 村上 陽向
「自然の大切さ」
杵築市立八坂小学校 …………… 6年 渡邊 駿貴
「自然を守ることを伝えていきたい」

入選

杵築市立山香小学校 …………… 6年 緒方 琥
「守ろう、自然のじゅん環システム」
豊後高田市立高田小学校 …………… 5年 山田 月海
「わたしのふるさとの世界農業遺産」
豊後高田市立香々地小学校 …………… 5年 大力 彩佳
「しいたけさいばい」



最優秀賞 「ため池を守る池守り」

やすみ あやり
安見 彩里（国東市立志成学園 5年）

2013年「国東半島・宇佐地域」の農林水産循環システムが、「世界農業遺産」に認定されました。認定された理由は、日本最大のクヌギ林とそれにかん養された水源が農林水産物や農村生活、多様な生物を育み、里山と農村の美しい景観を形成しているからです。

私の住む武蔵町三井寺地区にも、ため池があります。一つは、私の家の裏山をずっと上っていったところがあり、今は使われていません。散歩の途中で見つけた父は、こんな山の上にため池をつくっていて、びっくりしたと言っていました。

もう一つは、大正時代の初期につくられた奥迫池です。私の父は今年ちょうど池守りをしています。池守りは、ため池の管理をします。地区で、当番が決まっています数年に一回回ってきます。父に、池守りが回ってくるのはこれで三回目です。池守りは、二人一組でします。なぜ

かという、樋をぬくとき水の中に入ってつからなければならないので、とてもきけんなのです。へたをすると、すい込まれるときもあります。父が、初めて池守りをしたときは、水の中に入って樋をぬくのが気持ち悪かったと言っていました。五年ほどまえに、奥迫池の改修工事があり、新しくゲートができたので、水を流す仕事が楽になったそうです。

池守りになると、田んぼをつくっている人から電話がかかってくる。それは、

「田んぼに入る水が、少ないから池の水を落としちよくれ」

だったり、

「水が、ようけ入りよるから止めちよくれ」

だったりします。そのたびに、父はため池に行き、水を落としたり、止めたりしています。

それは、お米づくりをしていく期間中、ずっと続きました。父は、会社に勤めているので、その作業は早朝にしたり、夕方帰ってからしたりしていました。私は、大変だなあと思いました。

ため池は、水不足で作物が育たなかったため、昔の人がお金を出し合っってつくったものです。その管理も、ため池を使う人が持ち回りで行って来ました。それが、百年以上経った今も、同じように米づくりに活用されています。私は、そのことに感動しました。

三井寺地区は、高齢化が進んでいて池守りをすることが、できる人がどんどん少なくなっています。この、歴史あるシステムが私が大人になるころに残っているのか心配です。これから、どのようにしたらため池を守っていけるのか考えていかなければならないと思います。



優秀賞 「自然の大切さ」

むらかみ ひなた
村上 陽向（杵築市立立石小学校 6年）

ぼくたちの学校では、毎年、地域の方の田んぼで田植えをしています。ぼくは、今年が小学校生活最後の田植えでした。六年生として下級生に植える場所を教えながら、楽しく行い、「おいしいお米ができますように」と思いました。

立石地区は、田んぼが多く、学校の周りにもたくさんあり、昔から稲が多く作られていると思っていました。しかし、実は山に囲まれた土地で、川も少なく、稲作に向いているわけではないと知ったのです。

それは、四・五年生で立石地区の偉人「野口善兵衛さん」について調べたときに分かりました。善兵衛さんは、立石の人が作物が取れず苦しむ姿を見て、ため池作りを始めたそうです。多くの人が汗をかき、力を合わせて働いたおかげで、十五個のため池ができました。また、善

兵衛さんは、ろうそくづくりも始め、立石の人が働く場所をつくり、地域の発展を目指しました。さらに、昔は山に木がほとんどなく草ばかりだったそうです。そこで善兵衛さんは、植林も行ったそうです。植林のおかげで現在の立石は、たくさんの木々でおおわれています。善兵衛さんのおかげで今の豊かな立石があります。

六年生になって、世界農業遺産について学習をしました。世界農業遺産の目的は、こうしたいろんな価値をもつ伝統的な農業を次の世代に引き継ぐことです。富来地区のため池がクヌギ林と中心になって「循環システム」になっていることを知りました。循環システムがあることで、田畑の豊作を神様にお祈りするお祭りや多様な生き物、豊かな農林水産物、素晴らしい景観などの恩恵があると分かりました。クヌギ林が食べ物を産み、ため池文化を生んでいておどろきました。

長年かけて先人たちが築いた「循環システム」が、世界に誇れる農林水産物を育み、文化や景観を守る大きな輪になっています。ぼくたちの住んでいる立石地区でいうと、立石楽やホタル、たくさんのお米、緑が多く自然豊かな土地のことだと思います。この国東半島宇佐地域が世界農業遺産に選ばれ、それぞれの場所がつながり、大切にされていってほしいです。

最後に、善兵衛さんへの手紙を書きます。

善兵衛さんへ。たくさん勉強して、立石の人々のためにため池を作ることなどを提案しています。すごい人だなと思いました。善兵衛さんのおかげで、田んぼが前より増え、お米がたくさんとれる豊かでとてもいい立石地区になりました。これからは、ぼくたちが立石地区の豊かさを守っていきたいです。



優秀賞「自然を守ることを伝えていきたい」

わたなべ しゅんき
渡邊 駿貴（杵築市立八坂小学校 6年）

世界農業遺産ってなんだろう、世界文化遺産とどうちがうだろう。と思い図書館に行き調べたら、世界において重要かつ伝統的な農林水産業を営む国連食糧農業機関が認定する制度でぼくが住む大分県国東半島宇佐地域も認定されていると知りました。世界農業遺産について知りたかったので図書の先生に「カブトムシ山に帰る」という本を紹介してもらいました。

最近カブトムシが小さくなり減りつつあるということが書かれていました。昔は、木を材料としてご飯を炊くのも風呂を沸かすにもマキを使って生活をしていたけれど、今、ぼくたちの生活は電気や石油を使用しています。そのため雑木林も荒れ樹液も腐葉土も少なくなってきたため、カブトムシにとって生活がしにくくなってきたので、カブトムシが減っているそうです。

なぜ雑木林が荒れると悪いかというと、クヌギの木から豊かな樹液が出なくなり栄養豊富な

腐葉土ではなくなるからです。カブトムシやクワガタムシの幼虫の時に、どれだけ栄養をたくさん食べているかで成長した時の大きさが決まります。カブトムシが生活しやすい環境というのは、人間も同じです。人は自然から多くの恩恵を受けています。美しい風景、きれいな空気と水そして何よりも大切な食べ物を得ることができています。

ぼくの住んでいる杵築は、自然が豊かです。

夏の始めには池の周りの田んぼで、ホタルをたくさん見ることができます。また、家の近くにあるクヌギでカブトムシやクワガタムシを採ったこともあります。いろいろな種類が採れたり、大きいものが採れたりした時はとてもうれしかったです。家の田んぼでは毎年おじいちゃんがお米を作ってくれます。大変な農作業をしてくれることに感謝しておいしく食べています。海で釣りもよくします。海が美しい時とゴミでよごれている時があります。美しい時は、とても気持ちがよくなり、よごれている時は、ゴミを捨てた人に注意したい気持ちになります。こんな自然のかかわりがあたり前のことだと思っていたけど実際この本を読んで、人と自然が協調して生きているんだなと気づかされました。

このような中で、大分県国東半島宇佐地域が、世界農業遺産に認定されていることも大分県に住んでいるぼくにとってはほこりだなと思います。

ぼくの、大好きな海や魚や生き物がずっといい環境のまま減らないといいなと思います。

自然を守ることで生き物と、ぼくたち人間も快適な環境で生活できるのだと思います。「自然を守ることが、命を守ること」だと思います。だから自然を守ることを伝えていきたいです。



入選「守ろう、自然のじゅん環システム」

おがた たける
緒方 琥（杵築市立山香小学校 6年）

世界農業遺産について作文を書くことになったとき、ぼくは、初めて自分の住んでいる地域が世界農業遺産になっていることを知りました。でも、そのことについてはあまり知りませんでした。「木が食料を産む」という本を読んで、世界農業遺産は、自然が豊かだというだけでなく、その地域の伝統的な農業や文化、いろいろな生き物との共生などができている地域が登録されていることを知りました。

ぼくのおじいちゃんは、山浦で田んぼを作っています。ぼくは、田植えや稲かりなどのとき少しだけ手伝いをしています。農作業はとても大変な仕事でした。今年は、土入れと種まきも手伝いました。どちらも力仕事なので、がんばって働きました。田んぼの仕事はたくさんあり

ます。それをおじいちゃんがていねいにしてくれます。だから、おいしい、おいしいお米ができます。ぼくがおいしいお米を食べられるのはおじいちゃんのおかげだと思っていたら、なんと、ため池のおかげでもありました。田んぼの仕事の中でも大変なのは水の管理です。梅雨や、日照りの夏に水の管理をするのはとても大変です。でもため池があれば、水の調節ができ、田んぼをうるおしてお米を育てることができます。また、田んぼだけでなく、森林を育ててくれたり、自然災害をくいとめたり、水を川から海へ流して海中でプランクトンを育て、水産資源を守ってくれたりしています。そして、また海の水が雲になって、山で雨を降らせ、それをクヌギ林の落ち葉が、保水マットとなって雨水をためたり、ため池の水が一定に保たれたりしています。ため池はそういった自然のじゅん環システムをつくってくれているのです。ぼくが読んだ本には他にもため池がもたらしてくれることがたくさん書いてありました。

そういえば、山浦には大きな川はありませんが、ため池がたくさんあります。そのおかげであまり水には困りません。おじいちゃんの苦勞や、そのため池のおかげで、おいしいお米や野菜が食べられるのだと改めて思いました。

世界農業遺産は、地域のこの大切な特色を世の中に残すためにできたものだそうです。少子高齢化が進み、農業をする人が少なくなってきた今こそ、この世界にほこれる先人たちの遺産を守れるように、もっとみんなで学び、広げることが大切だと思います。



入選「わたしのふるさとの世界農業遺産」

やまだ つきみ
山田 月海（豊後高田市立高田小学校 5年）

私は世界農業遺産について最初は、まったく知りませんでした。でも今日調べてみて、日本だけでなく世界の農業遺産に豊後高田市が入っていると知ってとてもうれしいな、すごいなと思いました。

まず、クヌギの木についてです。最初は木を切ったら、新しい種を植えて新しい木を育てていると思っていました。でも勉強している中でクヌギの木は伐採しても切り株から萌芽して再生するので、木材資源が循環するという優れた特性があるということを知りました。一年生の時にシイタケ栽培で使ったクヌギの木も循環していると知っておどろきました。

次にため池についてです。私はため池を見たことがなかったです。ただ調べてみたことで、

いくつか分かったことがあります。

一つ目はクヌギ林の落ち葉が保水マットを作り雨水を保全していることです。

二つ目はため池に水がいつも一定に保たれてため池を複数連携させ、より多くの水を保てることです。

三つ目は田畑を潤し農作物を育てることです。

これらのことから、川から海へ水が循環し、そしてそこにプランクトンなどたくさんの生き物がいるということを知りました。

クヌギの木やため池の水の循環によって、すばらしい景観や多様な生態系や乾シイタケやお米などの農林産物といった、たくさんの恩恵を受けているということを知りました。

今回の学習を通して自分にできることを考えてみました。それは水をきれいにすることです。たとえば、水の中にゴミを捨てたりしないことや、むだに水を使ったり、水を使った後は、水を出したままにしないことに気をつけていこうと思います。

また、国東半島宇佐地域について調べましたが、今度は他の地域や国々の世界農業遺産についても、調べていきたいなと、思いました。



入選「しいたけさいばい」

だいきりき あやか
大力 彩佳（豊後高田市立香々地小学校 5年）

私の家は農家です。中でも、お父さんは、しいたけさいばいに力を入れています。

私が大変だと思う作業は、三つあります。まず一つ目は、こまうちです。毎年、家族でこまうちを八万個しているので、一人では、大変な作業だと思います。二つ目は、しいたけの管理です。お父さんは、しゅうかく時期になると、毎日天気予報を見て、雨がふる予報だとしいたけの木にビニールをかけます。なぜなら、雨にあたるとしいたけの品質が悪くなるからです。三つ目は、しいたけのかんそうです。いつも夜中に何度もかんそう機を見に行っているからです。

実際にお父さんに聞いてみると、一番大変な作業は、重たい木を移動させたり立てたりすることだそうです。私も小学校四年生の時、学校でしいたけのこまうちをした木をもちました。

小学校の木は、家の木の三倍くらいあるのでとても重いことが分かります。大変なことの予想は、ちがっていたけど、しいたけさいばいは、大変な作業のくり返しだと思いました。

私たちは、総合的な学習の時間に、香々地の名物のPRをしようとしたけの種類、作り方などを調べたり聞いたりしました。給食のメニューを見て、食べた感想を書いて新聞みたいにまとめて、先生たちにも聞いてもらいました。その中でも、新しく知ったこともたくさんありました。同じしいたけでも、かさのまきこみが強いものは、「どんこ」、ヒダ立ちが美しい物を「こうしん」といい、ふせ方もいろいろなやり方があるということです。なぜいろいろなふせ方をしているかというと、その土地のかんきょうなどに合わせているからだそうです。私の家では、鳥居ぶせをしています。鳥居ぶせは、いろいろなかんきょうに合うそうです。

私は、お父さんに、こんな話をしてもらいました。それは、くぬぎの木のことです。くぬぎの木は、切られたら自分で芽を出し、また、大きくなったら、どんぐりを落とし、そこから芽を出します。このくり返しです。私は、くぬぎの木がかっこいいと思いました。なぜなら、自分の命を自分でつないでいるからです。

しいたけは、そのくぬぎの木を使ってさいばいされています。だからこそ自然を大切にしておいしいしいたけを、たくさんの人に食べてもらいたいです。

世界農業遺産（GIAHS）とは？

Globally 〈世界的に〉 Important 〈重要な〉 Agricultural 〈農業の〉
Heritage 〈遺産〉 Systems 〈システム〉

食料の安定確保を目指す国際組織である、国際連合食糧農業機関（FAO）が2002年に開始したプロジェクトで、次世代に受け継がれるべき伝統的な農業・農法とそれに関わって生まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システム（林業及び水産業を含む。）を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。

世界農業遺産認定基準

【申請地域の特徴を評価する5つの認定基準】

1. 食料及び生計の保障	2. 農業生物多様性	3. 地域の伝統的な知識システム	4. 文化、価値観及び社会組織	5. ランドスケープ及びシーンスケープの特徴
申請する農林水産業システムは、地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献するものであること。	申請する農林水産業システムは、食料及び農業にとって世界的に重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。	地域の伝統的な知識システムが、「地域の貴重で伝統的な知識及び慣習」、「独創的な適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える天然資源の管理システム」を維持していること。	申請する農林水産業システムには、地域を特徴付ける文化的アイデンティティ、風土、資源管理や食料生産に関連した社会組織が存在すること。	長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達してきたランドスケープやシーンスケープを有すること。

※ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。

※シーンスケープ：里海であり、沿岸海域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの。

世界農業遺産認定サイト

世界の農業遺産認定サイト/全62サイト（2022年2月現在）



- 日本/11サイト
- アジア(日本を除く)/30サイト
- ヨーロッパ/7サイト
- アフリカ/10サイト
- 中南米/4サイト

クヌギ林とため池によって持続的に維持されている、 日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に1,200以上のため池を造り、連携させた用水供給システムを確立し、水稲や国内唯一のシトウイ栽培に計画的に配分している。
また豊富にあるクヌギ林を利用した日本一の原木しいたけ栽培は水田農業を補い、森の保水性を維持し、ため池とともに貴重な給水源となり多様な生態系を育てている。
先人たちが営々と作り上げてきたこのクヌギ林とため池による「循環型の農林水産業」の営みが世界的に価値のあるものとして認められた。



- ①豊後高田市
- ②杵築市
- ③宇佐市
- ④国東市
- ⑤姫島村
- ⑥日出町

地形的制約が生んだ「ため池」を
複数連携させた用水供給システム



複数連携式のため池群管理システム

国東市綱井地区では、6つのため池を連携させたシステムが江戸時代から今日まで運用されています。最上流にある高雄池(たかおいけ)は水稲の育成後期用として貯水され、それまでの期間は、中流域の3つと下流域の2つのため池が保水し合って給水します。



美迫池(みさこいけ) (国東市)

この地域では、用水供給システムを継続的に運用するための知識と経験の伝承が行われています。ため池に関する操作や管理を委ねられた「池守り(いけもり)」という役割があり、水田の水の受給の平準化と少ない水を効率よく公平に使うための取水管理が行われています。両子山頂から放射状に広がる河川のそれぞれで、このシステムが維持管理されていることが、この地域の水田農業の特徴です。

クヌギの循環システムと食料生産システム



クヌギ林の管理と原木しいたけ栽培

クヌギは、伐採しても切り株から萌芽して再生するため、木材資源が循環するという優れた特性を持っています。植林されたクヌギ林は、適正な管理を経て約15年後に原木しいたけ栽培に適したサイズとなります。成長したクヌギは秋に伐採され、しいたけ生産へ供給されます。伐採後のクヌギの切り株からは翌春新芽が萌芽し、成長に必要な日照と養分を確保するため下草刈りが行われます。刈られた下草は、次世代の下草の成長を抑えつつ、ゆっくり分解しながらクヌギの成長を助ける養分となり、さらに、落ち葉やしいたけ栽培で使用を終えた原木も腐植してミネラル豊富な土となり、膨軟な保水層を形成します。また萌芽から2~3年後には、成長を促進するために芽の数を2~3本残すように整理を行い、やがてクヌギ林は伐採から約15年後に原木として利用できる大きさに再生します。



次世代への継承の取組

次世代継承教育事業

地域の自然環境や伝統文化、農林水産業、景観等についての探究的・協働的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、その課題の解決に向けて主体的に考え行動する力を育成するとともに、地域と自分とのかかわりを考えながら積極的に行動しようとする態度や郷土を愛する心を育てる。

(対象：国東半島宇佐地域の全小・中学校及び義務教育学校)

各小学校等の取組 (全61校)

- ・世界農業遺産について探究的に学ぶ
- ・体験活動の支援
- ・教材本の活用 (世界農業遺産を知る)
- ・**高学年を対象とした作文コンクール**
(興味関心を高める)



小学生向け教材本

各中学校等の取組 (全23校)

- ☆パンフレット、プロモーションビデオ活用を活用した世界農業遺産の学習
- ☆ゲストティーチャーを招聘した講話や体験活動
※ゲストティーチャー：世界農業遺産に関わる地域の方
- ☆世界農業遺産に係る探究学習
(インタビュー、発信等)
- ☆プレゼンテーション、レポート等で報告・発信
(中学生サミットにおける発表 等)
- ☆学校行事、学校ウェブサイト等で報告・発信



中学生サミットにおけるステージ発表とポスターセッション

高校生「聞き書き」事業

「しいたけ」や「シチトウイ」生産者など「地域の名人」を訪ね、その知恵や工夫、思いなどをインタビューし、「聞き書き」の手法を用いてまとめる。そのことを通じて世界農業遺産に認定された価値や故郷の素晴らしさを見いだす。

※聞き書き：話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口で一つの文章にまとめる手法。「聞き書き甲子園」(主催：農林水産省、文部科学省、環境省、特定非営利活動法人共存の森ネットワーク等)で用いられている。



地域の名人への取材の様子

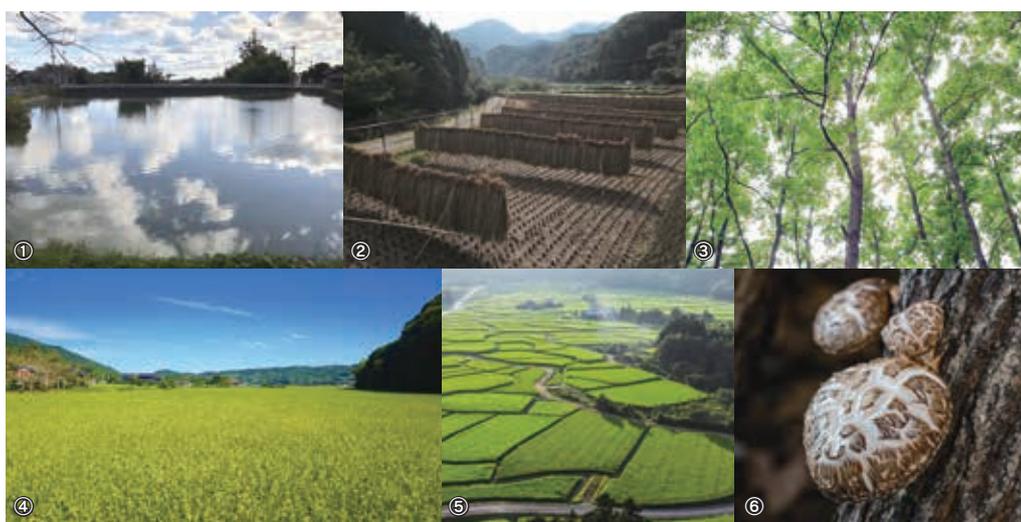


高校生「聞き書き」作品集



表紙写真紹介

- ① クヌギとため池
- ② 藤原池
- ③ 田染荘
- ④ ほだ場
- ⑤ 稲穂



各作品冒頭写真紹介

- ① 綱井のため池
- ② 田染荘かけぼし
- ③ クヌギ林
- ④ 田園風景
- ⑤ 田染荘
- ⑥ 原木しいたけ

令和3年度
**国東半島宇佐地域世界農業遺産
 小学生作文コンクール入選作品集**

令和4年2月 発行

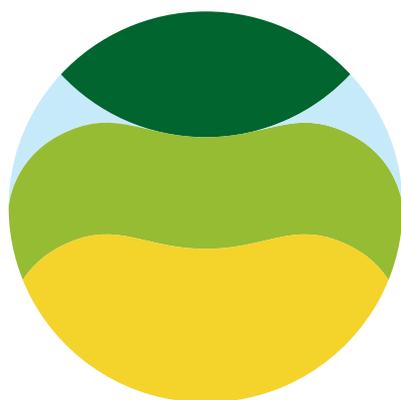
発行者：国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

【事務局】大分県農林水産部農林水産企画課世界農業遺産推進班
 〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1
 TEL 097-506-3525

印刷：株式会社 プリメディア

禁無断転載 複写

※表紙及び作品の写真については、国東半島宇佐地域世界農業遺産写真コンテスト及び国東半島宇佐地域世界農業遺産フォトコンテストの作品等です。



国東半島宇佐地域
世界農業遺産

Kunisaki Peninsula Usa GIAHS